

リレーコラム 15

キャリアの積み方—私の場合

東京女子医科大学八千代医療センター

素晴らしい職場に恵まれて

白戸由理

私は小児科医 12 年目で、子供が 10 歳、9 歳、4 歳、3 歳の 4 人おります。主人は大学時代の同級生で、同じ県内の大学病院の眼科に勤務しております。私の両親は他界しており、主人の両親は現役医師のため、今まで二人で何とか助け合いながら、仕事を続けてまいりました。お互いがスケジュールを調整して、仕事と子供の用事、家事をなんとなく分担してやりくりしている毎日です。始めは家事をできるだけ頑張っていました。私が雑なのを見るに見かねて主人が手伝ってくれるようになりました。今では買い物、食事作り、洗濯物をたたむ、学校や保育園の行事は私が中心に、掃除、洗濯、食器片づけ、土日の子供の習い事の送り迎えなどは主人が中心にやるようになりました。主人は「イクメンとか言うけど、俺が一番いろいろやってるよ！！」といつも言います。

私の勤務は月から土曜日、朝 8 時半から 18 時頃までで、月 2 回程度、土日に 23 時までの救急外来勤務と当直をしております。保育園の終わる時間までには帰らせていただいたり、夜の救急外来の勤務や当直を主人の勤務日でない日やオンコール以外の土日に限らせていただいています。幸い子供たちはあまり具合が悪くなることはありませんが、子供の具合が悪くなって学校や保育園から呼び出しを受けた時には、職場の先輩方や後輩達が子供の心配までしてくださって、早く帰らせていただいています。私が勤務中に主人が突然病院から呼ばれたときは、職場の休憩室で看護師さんが子供たちの面倒をみてくださったりします。

私が夜の救急外来勤務や当直の日には先輩、後輩や看護師さんまでもが「お家大丈夫ですか？」「4 人もいるのに当直は大変ですよ？」「当直していただいてありがとうございます。」と家族の心配してくださったり、感謝してくださったりします。子育てをしながら働く上で、これ以上の素晴らしい環境はないので、感謝しないといけないのは私の方だと思っています。子供たちには時にはさみしい思いをさせているかもしれませんが、家族は私を応援してくれていて元気をもらっています。

職場の理解があれば子供が 4 人いてもなんとかやっていけるので、こんな素敵な職場が増えることを願っております。

しらと ゆり
白戸 由理

2002年東海大学医学部卒業。

東京女子医科大学小児科学教室入局

2006年東京女子医科大学八千代医療センター 発達小児科、小児科勤務。

眼科医の夫と10歳（長女）、4歳（次女）、3歳（三女）のこどもたちの6人家族

男女共同参画推進委員会より

「イクメン」と「イクボス」

日本の男性の家事・育児時間は週平均1時間で、米国やドイツの3分の1と報告されています。2010年6月に、厚生労働省は、男性にもっと育児に参加してもらうための啓発イベント「イクメンプロジェクト」の作戦を開始しました。イクメンとは、子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のことです。イクメンプロジェクトは、イクメンが多くなれば、女性の生き方や家族のあり方が大きく変わり、社会全体も豊かに成長していくというビジョンを掲げて発足しました。

一方、このプロジェクトの達成のためには、まず、上層部の理解と意識改革が必須です。部下が育児と仕事を両立できるよう配慮し、育休取得や短時間勤務などワークライフバランスをとりつつ業務効率を上げ、自らも仕事と生活を充実させている管理職を「イクボス」と呼びます。しかし、このイクボスの存在だけでは、職場環境を改善していくことは難しく、「イクボス」だけが苦しむ結果になってしまいます。上下や男女を問わず全員で、病院勤務に関わる数々の問題を時間をかけて解決し、職場環境を整備していく努力が必要です。